

事業報告（平成3年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15014/00000404

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



事業報告（平成3年度）

I. 展示関係

A. 収蔵品展一覧

1. 芸術資料館陳列室

第1回 「春季展」

会 期 平成3年4月8日（月）～4月27日（土）

入場者 925人

第2回 「新収蔵品展」

会 期 平成3年5月27日（月）～6月22日（土）

入場者 1585人

第3回 「西洋の書物」展

会 期 平成3年9月9日（月）～10月5日（土）

入場者 631人

第4回 「秋季展」

会 期 平成3年11月11日（月）～11月30日（日）

入場者 1662人

第5回 「卒業作品－大正前期の日本画」展

会 期 平成4年1月20日（月）～2月8日（土）

入場者 522人

◎総計 5325人（102日開室）

2. 京都市四条ギャラリー

京都市四条ギャラリー（四条高倉）において、本館及び本学芸術教育振興協会が主催する収蔵品展を開催した。

「京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展

歌神・歌聖－土佐派絵画資料展」

会 期 平成3年11月2日（土）～11月24日（日）

入場者 1745人

B. 収蔵品展展示概要

第1回 「春季展」

会 期 平成3年4月8日（月）～4月27日（土）

入場者 925人

芸術資料館となり、収蔵品展についても少し考え方を考えてみた。従来のテーマ展示を中心とした陳列では、どうしても公開の機会が少ない作品ができてしまう。その中には優れた芸術資料であるものも少なくない。加えて、収蔵品の修理改装が終わったあとの披露の場の必要も感じている。そこで、春と秋に、特にテーマにこだわらない展示を開催することにした。第1回目にあたるこの展示は開館記念展でもあり絵画・彫刻・工芸の分野からバラエティーに富む構成を考えてみた。彫刻の大村作品や北村作品、また江戸期の山水群馬図は久しく公開されていないものである。今後は、学外への貸出に応じながら学内では公開されていないという作品が生まれる不自然にも配慮しながら展示構成を考えるつもりである。

展 示 作 品

1. 作者不詳	山水群馬図	江戸時代前期	日本画
2. 望月 玉成 作	花鳥図	c. 1935年	〃
3. 麻田 辨自 作	嶋群	1962年	〃
4. 林司馬・吉田友一・中島卯一郎・吉田義夫 模	西行物語絵巻模本（大原家本）	原本鎌倉時代	〃
5. 松元 道夫 模	酒飯論模本	原本室町時代	〃
6. 黒田重太郎 作	平安春色	1939年	洋 画
7. 川端彌之助 作	疏水	1958年	〃
8. 安田 謙 作	ドン＝キホーテ	1967年	〃
9. 浜口 陽三 作	葉	1967年	版 画
10. 駒井 哲郎 作	消えかかる夢	1951年	〃
11. 浜田 知明 作	初年兵哀歌（風景）	1952年	〃
12. RUDOLF HAUSNER	EVA FUNDAMENTAL	1965年	〃
13. POUL WUNDERLICH	ANTON FASCINE PAR DANIEL	1971年	〃
14. 大村 西崖 作	大獅子	1895年	彫 刻
15. 北村 西望 作	母性	1925年	〃
16. 永楽 和全 作	色絵椿文鉢	幕末～明治時代	陶 器
17. 作者不詳	錆絵染付秋草人物図水注	幕末～明治時代（栗田焼）	〃
18. 角倉一方堂 作	染付蝦蟹図茶碗	幕末～明治時代	〃
19. 加守田章二 作	壺	1956年	〃
20. 藤本 能道 作	日蝕	1957年	〃
21. 八木 一夫 作	壁体	1963年	〃
22. 森野 嘉光 作	緑釉窯変花瓶	1978年	〃
23. 浅見 隆三 作	展	1981年	〃
24. 作者不詳	挿秧蒔絵螺鈿長手盆	桃山時代	漆 工
25. 永田 友治 作	鶴蒔絵螺鈿丸硯箱	江戸時代	〃
26. 永田 友治 作	刷毛目塗蟹蒔絵角硯蓋	江戸時代	〃
27. 平館 嘉邦 作	春馬図研出蒔絵飾盆	c. 1959年	〃

第2回 「新収蔵品展」

会 期 平成3年5月27日(月)～6月22日(土)

入場者 1585人

恒例になった新収蔵品展示である。平成2年度に寄贈または購入により収蔵された作品のうち買上となった卒業作品を除き展示した。大きく絵画と染織に分けられる内容となっている。日本画と洋画の本画作品が例年に較べて多いため会場も華やかで迫力のあるものとなった。元本学教授であった上原卓・津田周平作品がまとめて収蔵されたことは大学にとっても喜ばしいことである。また昨年より本館では写生と画稿の収集を方針としたが、本年度は本学の前身である絵画専門学校の卒業生であり教員でもあった日本画家福田平八郎の写生資料が加えられた。

展 示 作 品

1.	上原 卓	草	昭和37年(1964)	日本画
2.	"	竹の径	昭和49年(1974)	"
3.	"	野なかのばら	昭和53年(1978)	"
4.	"	山狭の里	昭和60年(1985)	"
5.	"	上原卓写生一括資料の内(淀)	昭和40年(1965)	写 生
6.	"	上原卓写生一括資料の内(横たわる裸婦)	昭和46年(1971)	"
7.	"	上原卓写生一括資料の内(カステリオーネローナ)	昭和50年(1975)	"
8.	"	上原卓写生一括資料の内(実相院の二本の松)	昭和55年(1980)	"
9.	"	上原卓写生一括資料の内(あさがお)	昭和55年(1980)	"
10.	"	上原卓写生一括資料の内(花)	昭和57年(1982)	"
11.	"	上原卓写生一括資料の内(大枝の竹)	昭和57年(1982)	"
12.	"	上原卓写生一括資料の内(花)	昭和57年(1982)	"
13.	"	上原卓写生一括資料の内(おにゆり)	昭和58年(1983)	"
14.	"	上原卓写生一括資料の内(つばき)	昭和60年(1985)	"
			寄贈(上原 百合子)	
15.	津田 周平	洛北にて	昭和18年(1943)	洋 画
16.	"	浴室	昭和24年(1949)	"
17.	"	室内裸婦	昭和27年(1952)	"
18.	"	いつかは石にかえる(涅槃)	昭和36年(1961)	"
19.	"	鏡の中の少女	昭和51年(1976)	"
20.	"	朝寒	昭和60年(1985)	"
			寄贈(津田 トシ)	
21.	来野 月乙	遠野抄	昭和63年(1988)	染 織
			寄贈(作者)	
22.	MICHAEL BRENNAND-WOOD	EVERYBODY MOVES	1990	染 織
23.	"	NOW VOYAGER	1990	洋 画
			寄贈(作者)	
24.	川端彌之助	美大教授会拾遺	昭和31年(1956)	写 生
			寄贈(高木 町)	
25.	福田平八郎	桜花	明治45年(1912)	写 生
26.	"	美工・絵専50周年記念帖下絵	昭和5年(1930)	小下絵
			寄贈(福田 宗平)	
27.	福田平八郎	黄菊	大正14年(1925)	写 生
28.	"	すっぽん・レンコン等	大正13年(1924)	"
			購入	

参考展示：創立五十周年記念「絵専・美工記念帖」

昭和5年(1930)

◎昨年度寄贈を受けた作品のうち、既に展示の機会があったため、本展で割愛したものは以下の通りである。

1.	濱田 観 芥子	昭和22年(1947)	日本画
		寄贈(浜田 昇児)	
2.	山本 倉丘 静晨	昭和60年(1985)	日本画
3.	“ アトリ	昭和15年(1940)	写 生
		寄贈(作者)	
4.	石本 正 二人の裸婦	昭和54年(1979)	日本画
		寄贈(作者)	
5.	上原 卓 湖上寂照	昭和51年(1976)	日本画
6.	“ 上原卓写生一括資料の内(りんご)	昭和46年(1971)	写 生
7.	“ 上原卓写生一括資料の内(鳩のくる庭)	昭和40年(1965)	“
8.	“ 上原卓写生一括資料の内(カステリオーネローナ)	昭和46年(1971)	“
9.	“ 上原卓写生一括資料の内(ひまわり)	昭和50年(1975)	“
10.	“ 上原卓写生一括資料の内(鶏頭)	昭和55年(1980)	“
11.	“ 上原卓写生一括資料の内(野の花)	昭和55年(1980)	“
12.	“ 上原卓写生一括資料の内(糺の森)	昭和57年(1982)	“
13.	“ 上原卓写生一括資料の内(実相院付近)	昭和57年(1982)	“
		寄贈(上原 百合子)	

1. 2. 4. 5は「近代日本画の誕生と歩み」展(東京・京都・大阪・広島)で展示。
 3. 6～13は「画家の眼 日本画－写生と下絵」展(京都市四条ギャラリー)で展示。

第3回 「西洋の書物」展

会期 平成3年9月9日(月)～10月5日(土)

入場者 631人

昨年開催した和書の展覧に続き、本学附属図書館の蔵書の中から西洋の書物を借用し展示したものである。本学は110年を超える歴史を持つが、その歴史の中で蓄積された美術関係図書も決して少なくない。また平成元年度に寄贈を受けた本学元学長の長崎太郎旧蔵書一括についても、その内容を紹介する必要があると考えてのことである。図書の選択には、20世紀初頭までに発行されたものを対象に、書誌的価値や、印刷技術の洗練度、装幀など造本の美と挿絵の美の鑑賞といった角度から選択した。かなり教育的な色彩の強い展示となったが、マーブル紙の美しさに焦点を当てたコーナーなどを新鮮に感じる鑑賞者も多かった。また展示には本学助教授である潮江宏三氏の多大の協力を得ることができ、専門性を高めることができた。

展 示 作 品

(1) 17・18世紀の書物と挿絵

1. クオールズ著	宗教図像集	(c1634)
2. マンデル著	ネーデルランドとドイツの画家伝	1764 (初版1618)
3. ボス著	銅版画の技法	1745 (初版1645)
4. ゲイ著	寓話	1729
5. バトラー著	フーディブラ	1744
6. ウェンツェスラウス・ホラー作品カタログ		1759
7. 26. アントン・ラファエルメングス全作品カタログ		1786
8. リチャードソン著	リチャードソン著作集	1792

(2) ブレイクとその時代の挿絵

9. 27. ヘイリー著	ウィリアム・クーパー伝	1803
10. ステドマン著	スリナム遠征物語	1813
11. ヘイリー著	ジョージ・ロムニーの生涯	1809
12. フラックスマン画	アイスキュロスの悲劇作品集	1831

(3) 19世紀の表紙の装幀—型押しと箔押し—

13. グッドリッチ著	贈物	1833 (長崎文庫)
14. レズリー著	贈物	(1835) (長崎文庫)
15. レズリー著	贈物	(1839) (長崎文庫)
16. ポー著	エドガー・アラン・ポー詩集	1858 (長崎文庫)
17. ロウエル著	詩集	1849 (長崎文庫)
18. ホイットマン著	草の葉	1861 (長崎文庫)
19. プロクター著	伝説と叙情詩	1866 (長崎文庫)
20. ムンツ著	ルネサンス—イタリアとフランス	1885
21. ハート著	美しきビルマー—過去そして現在	1897
22. クラウス著	キリスト教美術史	1896
23. ムンツ著	レオナルド・ダ・ビンチ	1898
24. ヴェールマン著	美術の歴史	1900

(4) 19世紀の表紙装幀—マーブル紙—

25. ヴァーチュー著	ウォルポール編：英国絵画拾遺集	1782
26. (7に同じ)		
27. (9に同じ)		
28. エドワーズ著	英国画家伝	1808
29. アービング著	ニューヨーク史	1821 (長崎文庫)
30. エマーソン著	講演	1837 (長崎文庫)
31. ポー著	エドガー・アラン・ポー詩集	1858 (長崎文庫)

- | | | | |
|--------------------------|-------------------------------|--|---------------|
| 32. | スプーナー著 | 伝記による美術の歴史 | 1865 (長崎文庫) |
| 33. | ホイッティア著 | モード・ミュラー | 1867 (長崎文庫) |
| 34. | ドラボルド著 | アングル | 1870 |
| 35. | ホーソン著 | 訴訟手続 | 1904 |
| (5) 19世紀の書物と挿絵 | | | |
| 36. | ビーティ著 | 吟遊詩人 | 1802 (長崎文庫) |
| 37. | グッドリッチ著 | 贈物 | 1831 (長崎文庫) |
| 38. | ホーソン著 | ウオーターマン画 雪少女 | 1866 (長崎文庫) |
| 39. | ホイッティア著 | ニューイングランドのバラッド | 1870 (長崎文庫) |
| 40. | ブライアント著 | フレデリックス画 雪の小人 | 1873 (長崎文庫) |
| 41. | バングス著 | リチャーズ画 家庭喜劇 | 1900 (長崎文庫) |
| 42. | キーツ著 | ベル画 キーツ詩集 | 1901 (長崎文庫) |
| 43. | オマル・ハイヤーム著、フィッツジェラルド訳、イーストン装幀 | ルバイヤート | 1896 (長崎文庫) |
| (6) 世紀末の表紙装幀—ジャポニズムを加えて— | | | |
| 44. | マイスナー著 | 芸術家選書第8巻 メンツェル | 1902 |
| 45. | ハットン著 | 人物画と構図 | 1903 |
| 46. | コンラッド著 | 二番目のジム夫人 | 1904 |
| 47. | スウインバーン著 | 日の出前の歌 | 1871 (長崎文庫) |
| 48. | エドナ著 | ルイザ・メイ・オルコットの生涯と文学 | 1889 (長崎文庫) |
| 49. | コーク著 | テオドア・パーカー伝 | 1883 (長崎文庫) |
| 50. | ヤコボ・ダ・ヴァラジネ著、カクストン訳 エリス編 | 黄金伝説 | 1922 (中井文庫) |
| 51. | ラスキン著 | 近代画家論 | 1873 |
| 52. | エルワンガー著 | 田舎の田園詩人 | 1896 (長崎文庫) |
| 53. | ジョンストン著 | 所有と維持 | 1900 |
| (7) ラフカディオ・ハーンの本と装幀 | | | |
| 54. | ハーン著 | 妖魔 | 1890 (長崎文庫) |
| 55. | ハーン著 | 知られざる日本の面影 | (1894) (長崎文庫) |
| 56. | ハーン著 | 心 | (1896) (長崎文庫) |
| 57. | ハーン著 | 天の河の物語他 | 1905 (長崎文庫) |
| 58. | ハーン著 | チータ；最後の島の思い出 | 1889 (長崎文庫) |
| 59. | ハーン著 | 怪談 | 1909 (長崎文庫) |
| 60. | ハーン著 | 中国の幽霊の話 | 1906 (長崎文庫) |
| (8) 装飾の手引き | | | |
| 61. | ホフマン著 | モダン・スタイル | 1901 |
| 62. | メイヤー著 | 装飾手本集 | 1892 |
| 63. | コッホ著 | ドイツ芸術と装飾 | (1900) |
| 64. | ミッチェル著 | 装飾 | 1909 |
| 65. | ジョーンズ著 | 装飾の手引き | 1928 |
| (9) ビアズリーとクレーン | | | |
| 66. | イエローブック | Vol.1 April, 1894. Vol.12, January, 1897 | |
| 67. | ビアズリー画 | アーサー王の死 | 1927 |
| 68. | ウオー著 | クレーン装幀 ギリシャの響き | 1882 |
| 69. | クレーン画 | エバンス制作 パンパイプー古い歌の本 | 1883 |
| 70. | クレーン画 | エバンス制作 子供のオペラ | (1877) |

*目録番号4、11、28、68、70は潮江宏三氏蔵

第4回 「秋季展」

会 期 平成3年11月11日（月）～11月30日（日）

入場者 1662人

春季展に続いて、収蔵名品展を開催した。洋画の分野を除けば、日本絵画・工芸の分野共、古物を中心に展示構成している。これらの作品も近年陳列の機会のないものばかりで、学生にはかなり新鮮に鑑賞されたようである。中でも明治期の模写と思われる神護寺肖像画模本三幅は、極めて質の高い模写として学外にも知られた作品であり、三幅揃って並ぶのは久しぶりの展示となる。ただし、作品の中には修理の必要を感じさせるものがあり、展示には細心の注意を要した。

展 示 作 品

1. 伝源頼朝像模本	原本神護寺蔵（鎌倉時代）	模 写
2. 伝平重盛像模本	”	”
3. 伝藤原光能像模本	”	”
4. 蒙古襲来絵詞模本 伝田中親美模	原本御物（鎌倉時代）	”
5. 当麻曼茶羅図	鎌倉時代	日本絵画
6. 両界曼茶羅図	室町時代	”
7. 洛外名所絵巻	江戸時代前期	”
8. 三輪晁勢 「仏法僧」	昭和45年（1970）	日本画
9. 麻田辨自 「唐崎一之松」	昭和53年（1978）	”
10. 黒田重太郎 「暮秋好處」	昭和15年（1982）	洋 画
11. 国盛義篤 「西芳寺林泉」	昭和23年（1948）	”
12. 伝小川破笠 「片輪車千鳥蒔絵酒温器」	江戸時代	漆 工
13. 梨地絵変り蒔絵提重	江戸時代	”
14. 密陀絵人物草花図重箱	江戸時代	”
15. 螺鈿唐子図六角食籠	江戸時代	”
16. 緑釉博山形酒樽	中国：後漢時代	陶 器
17. 灰陶博山形香炉	中国：後漢時代	”
18. 緑釉羊小屋	中国：後漢時代	”
19. 灰陶加彩牛	中国：後漢時代	”
20. 灰陶加彩鶏	中国：後漢時代	”
21. 加彩俑	中国：六朝時代	”
22. 三彩駱駝	中国：唐時代	”
23. 三彩武人俑	中国：唐時代	”
24. 黄釉文官俑	中国：唐時代	”
25. 加彩美人俑	中国：唐時代	”
26. 加彩騎馬女子	中国：唐時代	”

第5回 「卒業作品－大正前期の日本画」

会 期 平成4年1月20日（月）～2月8日（土）

入場者 522人

卒業作品の収蔵品展は近年開催が増えている。昨年の明治期の美術工芸学校卒業作品、特に日本画を中心とした展示に続いて、本年度は大正前半期の日本画作品を展示した。また、この時期の卒業作品には屏風の形式をとる大画面のものが多いため、意識的にそれらを集めてみた。大正デモクラシーといわれる自由な空気を反映して、色々な意味でもっとも京都らしい日本画が模索された時代だけに、有名無名の作者を問わず並べられた作品には新鮮な感覚が溢れている。会期の都合もあって、展示の内容に比例するだけの入室者が得られなかったことが残念であった。

展 示 作 品

1. 西 桜州	初午詣	明治45年（1912）	絵専卒業作品
2. 三宅 鳳白	もくれん	明治45年（1912）	美工卒業作品
3. 中原 竹鳳	湖畔	大正2年（1913）	絵専卒業作品
4. 高田富美也	粧	大正2年（1913）	美工卒業作品
5. 土屋 良夫	黙	大正2年（1913）	美工卒業作品
6. 永井 泰造	霜の朝	大正2年（1913）	美工卒業作品
7. 大村 広陽	牛	大正3年（1914）	絵専卒業作品
8. 久保 清挙	蟲撰み	大正3年（1914）	絵専卒業作品
9. 中津川景山	菊	大正3年（1914）	絵専卒業作品
10. 本多 貞翠	正遷宮	大正3年（1914）	絵専卒業作品
11. 松山 致芳	真鶴	大正3年（1914）	美工卒業作品
12. 松井 香瑤	冬となり	大正4年（1915）	絵専卒業作品
13. 稲垣 仲静	豹	大正6年（1917）	美工卒業作品
14. 前田 荻邨	風景	大正8年（1919）	絵専卒業作品
15. 旧教員下絵帖		明治44～大正15年（1911～1926）	
	竹内栖鳳「紙治」	明治45年（1912）	
	山元春挙「按摩」	大正9年（1920）	
	西山翠嶂「四手網」	大正12年（1923）	
	西村五雲「山吹」	大正12年（1923）	

C. 京都市四条ギャラリー展示

「京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展

歌神・神聖－土佐派絵画資料展－

会 期 平成3年11月2日（土）～11月24日（日）
 会 場 京都市四条ギャラリー（下京区四条高倉東入）
 入場者 1745人

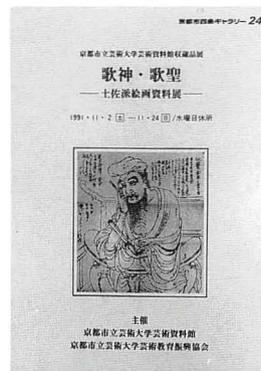
本館開設後館外で開催される第1回収蔵品展として京都市四条ギャラリーにおいて展観を行った。主催は本館及び本学芸術教育振興協会である。また展示に際し、前年の土佐派絵画資料目録の出版を受けて、同振興協会による刊行物として「土佐派絵画資料目録（二）肖像粉本（二）」が発行された。目録の編集は本学教授榊原吉郎氏、同非常勤講師岩間香氏と本館学芸員で行った。本展示の内容構成はこの目録編集作業から導かれたものである。

展示内容は本学の所蔵する土佐派絵画資料の中から柿本人麿・玉津嶋明神など歌神または歌聖として崇拜された図像を選び、概ね江戸時代前期の資料が多い。また、兵庫県立歴史博物館・波太神社から、展示資料に関わる貴重な本画作品を借用することが出来、展示をいっそう充実することができた。これまで一般に公開されていない資料だけに、会期中は美術愛好家はかりでなく、美術の専門家の来場も少なくなかった。

展覧会用に、ポスター（B3、2色刷）・はがき（2色刷）・パンフレット（B5判、4ページ）が制作された。



ポスター



パンフレット



はがき

ごあいさつ

京都市立芸術大学は、昨年開学110周年を迎え、さまざまな美術・音楽の記念事業を行ってまいりましたが、本年4月には、従来の附属図書館から資料部門を独立させ芸術資料館として新たに発足するところとなり、本学の一層の充実を図ることができました。ご承知のように長い歴史と伝統を誇る本学には、多くの先人たちの努力によって、研究・教育のための芸術資料や優れた芸術作品の収集が形成されております。それらを核としながら、今後は大学博物館として、広く一般に公開しつつ、学内では若い人々の創造力を刺激する場となるよう、力を尽くしてまいりたいと思います。

また、本学の芸術教育振興基金によります各種事業もお陰様で実りある成果をあげつつあります。多大なご協力に深く感謝する次第です。

その事業のひとつとして開催されます今回の展示は、芸術資料館が収蔵し調査研究をすすめている土佐家旧蔵の膨大な絵画資料の肖像関係のうち歌神・歌聖として親しまれてきた画像をまとめて構成したもので、昨年7月の「土佐派肖像粉本一將軍・茶匠・町衆」展に引き続いて開催されるものです。人麿関係の資料が一般に公開されるのは初めてのことで、学術的にも貴重な資料として高く評価されています。本展の開催にあたり、快く貴重な作品をご出品戴きました兵庫県立歴史博物館、波太神社をはじめ関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成3年11月

京都市立芸術大学芸術資料館
京都市立芸術大学芸術教育振興協会

出品目録

品名（作者）	年紀	材質	法量（mm）	番号
柿本人麿像	寛文5（1665）	紙本墨画	271×409	1
柿本人麿像	寛文8（1668）	紙本墨画	467×521	2
柿本人麿像	延宝2（1674）	紙本墨画	276×401	3
柿本人麿像	延宝8（1680）	紙本墨画	593×358	4
柿本人麿像（土佐左兵衛）		紙本淡彩	678×402	5
柿本人麿像	元禄9（1696）	紙本墨画	670×393	6
柿本人麿像（土佐光成）	元禄11（1698）	紙本墨画一部淡彩	741×407	7
柿本人麿像	元禄12（1699）	紙本墨画	411×264	8
柿本人麿像	正徳3（1713）	紙本墨画	561×405	9
柿本人麿像	享保5（1720）	紙本墨画	1028×823	10
柿本人麿像		紙本墨画	920×400	11
柿本人麿像		紙本墨画一部朱彩	455×378	14
柿本人麿像		紙本墨画一部淡彩	369×373	15
柿本人麿像	明暦3（1657）	紙本墨画	416×341	19
柿本人麿像	寛文5（1665）	紙本墨画淡彩	800×393	20
柿本人麿像（土佐光成）	延宝4（1676）	紙本墨画	864×363	21
柿本人麿像	元禄5（1692）	紙本墨画	710×405	22
柿本人麿像	享保6（1721）	紙本墨画	549×376	23
柿本人麿像		紙本墨画一部淡彩	622×494	24
柿本人麿像（土佐光高）	元禄3（1690）	紙本墨画	403×333	25

品名 (作者)	年紀	材質	法量 (mm)	番号
柿本人麿像	元禄3 (1690)	紙本墨画	320×411	26
柿本人麿像		紙本墨画一部淡彩	588×387	27
柿本人麿像		紙本墨画	381×458	28
柿本人麿像		紙本墨画一部朱彩	306×430	30
柿本人麿像	貞享5 (1688)	紙本墨画	289×415	31
柿本人麿像		紙本墨画	1140×450	33
柿本人麿像		紙本墨画	769×654	34
柿本人麿像	延宝2 (1674)	紙本墨画	468×414	35
柿本人麿像		紙本墨画	533×422	36
柿本人麿像	元禄5 (1692)	紙本墨画	713×340	37
柿本人麿像	享保3 (1718)	紙本墨画	544×337	38
柿本人麿像	享保5 (1720)	紙本墨画	560×284	39
柿本人麿像		紙本墨画	768×405	40
和歌三神図	元禄4 (1691)	紙本墨画	396×695	41
山辺赤人像	寛文8 (1668)	紙本墨画	270×398	43
住吉明神像	享保2 (1717)	紙本墨画	828×280	44
衣通姫像	寛文5 (1665)	紙本墨画	443×778	46
衣通姫像	元禄13 (1700)	紙本墨画	418×369	47
衣通姫像	宝永3 (1706)	紙本墨画	400×380	48
衣通姫像 (土佐光芳)	宝暦2 (1752)	紙本墨画	434×290	49
衣通姫像 (土佐吉丞)	延宝3 (1675)	紙本墨画	267×397	50
衣通姫像	延宝3 (1675)	紙本墨画一部淡彩	880×305	51
衣通姫・玉津島明神像	元禄4 (1691)	紙本墨画	1186×520	52
衣通姫像	享保3 (1718)	紙本墨画	547×336	53
衣通姫像		紙本墨画	379×407	54
玉津島明神像	寛文8 (1668)	紙本墨画	458×675	56
玉津島明神像 (土佐光成)	延宝6 (1678)	紙本墨画	541×430	57
玉津島明神像 (土佐光高)	元禄12 (1699)	紙本墨画	810×266	60
和歌三神名号三十六歌仙図		紙本墨画	780×371	63
天神像 (土佐光孚)	天保11 (1840)	紙本墨画淡彩	1160×548	70

特別出品

作品名	作者	制作年	材質形状	所蔵者
柿本人麻呂像	作者不詳	室町時代	絹本着彩	兵庫県立歴史博物館
三十六歌仙扁額 柿本人麿像	土佐光成	江戸時代	板絵着彩	波太神社
” 小野小町像	”	”	”	”
” 伊勢像	”	”	”	”
” 斎宮女御像	”	”	”	”
” 小大君像	”	”	”	”
” 中務像	”	”	”	”

※番号は土佐派絵画資料目録(二)の資料番号を示す。

※表紙図版は柿本人麿像(資料番号35)部分。

今回の展示は、われわれ日本人の心の奥底に流れている詩歌へのイメージが生みだした歌神・歌聖の肖像を土佐派絵画資料の粉本のなかから選択し、その豊かなイメージを再現してみたいと考えたのである。特に歌聖として人々に親しまれて来た柿本人麿の肖像粉本には種々の形式が存在しており、他の歌聖には見ることができないほどの変化に富んだ人麿像を見出すことができる。そのバラエティあふれる数々の肖像粉本は、柿本人麿に対する日本人の想い入れが創りだしたものにほかならないことを推測させてくれる。

これらの想い入れが創出したものについて、大和岩雄氏は著作『人麻呂伝説』で、さまざまな柿本人麿の伝説・伝承を書き記している。「入水伝説」や「若子伝説」・「河童伝説」・「梅若伝説」など様々な関係を解き明かし、さらに人麿を疫病・厄病除けの神としての「人丸弁天」を祀る話や、人麿の歌「ほのほのと 明石の浦の 朝露に 鳴かくれゆく 舟をしぞおもふ」が月経不順など女性の病に効力を持つと信じられたこと、など様々の民間伝承を指摘する。

しかし、本学の土佐派絵画資料には、若者や童子形をした人麿肖像はなく、ほとんど年老いた人麿や翁の人麿像の表現が主となっており、土佐派の絵師たちは、老人や翁の人麿を描くことに集中し、また作画を依頼した人々も、その画姿に満足していたと考えられる。人麿の「長寿伝説」も早くより成立していたらしく、『古今和歌集』の紀貫之をして、その「仮名序」において、「かのおほん時に、おほきみのくらゐ、かきのもとの人まろなむ、うたのひじりなりける」と記さしめている。その解釈いかんによっては、百歳以上も長生きした人麿も成立する。さらに「おほきみのくらゐ」も伝説化された正三位でしかありえないとされ、『古今和歌集』成立の時点で、すでに多岐に及ぶ人麿伝説が流布していたと云える。

「長寿伝説」から、俗人ではない[ひじり=仙]の思想に包まれた人麿像が生みだされてきても不思議ではない。本学の土佐派絵画資料の人麿像が老人の翁の姿に表現されているのも無理からぬことと云えよう。

また、渡唐の人麿像成立のごときは、菅原道真が中国へ渡り、渡唐天神としての信仰を受けたのと同様に、さらに云えば、源義経が蒙古へのがれ、ジンギスハンに生まれ代わったと云う伝承が発生したごとく、人麿に対する人々の溢れるような想いがその姿を創り上げたに相違いない。しかし、この渡唐像の成立については、何時・何処で・誰によって創りだされたのか判然としていないのである。その粉本は、「延宝貳年 [1674] 12月下旬」の年紀をもっており、少なくとも17世紀の後半には、この形式の像容を渡唐の人麿として求めた人々がいたことは間違いない。人々の間で人麿を中国へ渡らせる考え方が何時のころからか芽生え、画像として描くことを土佐派の絵師に求めたのである。いずれにしても、神話的な空間を創りだすエネルギーを柿本人麿は保持していたと、いってよいのである。

人麿像の粉本は本学に43枚の画像が現存する。そのうち立像が5図、坐像37図、寝そべり頬杖をつく気ままな人麿像1図と、そのほとんどが坐像であることは、坐像をもって祭祀の図像とする伝統が永続してきたことを物語っているのではないだろうか。だが、現存粉本の年紀のもっとも古い作例は、「寛文5年(1665)卯月下旬」の墨書であり、あまり古くに遡ることはできないが、しかし、兵庫県立歴史博物館所蔵の作例もあり、少なくとも鎌倉末期から室町初期には土佐派の絵師たちによって数多く、礼拝対象として描かれたことは疑えない事実であろう。

また、赤鬼が墨を磨り人麿に仕えるユーモラスな図像もあり、人麿に対する人々の想い入れの大きさと広がりを感じ取れるのである。

(京都市立芸術大学教授)

●ギャラリー講座

□11月15日(金)

「土佐派絵画資料と歌神・歌聖の絵」
岩間香 (京都市立芸術大学非常勤講師)

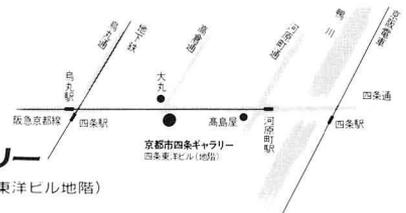
●午後5時30分会場でおこないます。

次回予告

京都市四条ギャラリー 25

「京都市立芸術大学
留学生展」

1991・11・28 (木) — 12・23 (月)



京都市四条ギャラリー

京都市下京区四条通高倉東入(四条東洋ビル地階)
TEL(075)223-1851 〒600

●開所時間：午前10時～午後7時 ●休所日：水曜日、年末・年始

II. 教育普及関係

A. 収蔵品貸出状況

本学外に貸し出された収蔵品は下記のとおりである。

平成3年度総計 23件 75点

作品名	貸出先	展覧会名	会期
上村松篁－立葵	愛媛新聞社	上村松園・松篁・淳之展	91.10.30～11. 4
土佐派絵画資料 「土佐光吉像」 「足利義晴像」2点 「天竺氏」 「三好義継」 「足利義輝像」2点 「今井宗久像」 「長谷川藤広像」2点 「祐心像」 「佐々木左京内室像」	大和文華館	日本の肖像画	91.10. 4～11.10
西山秀雄－廃船	宮城県美術館	昭和の絵画・第1部	91. 7.13～ 8.11
福田平八郎－雨後	大分県立芸術会館	生誕100年記念福田平八郎展	91. 8.29～ 9.23
村上華岳－裸婦画稿	静岡県立美術館	人体表現の歴史と現在	91.10.19～12. 1
徳岡神泉－水汀 晩秋	名古屋市美術館	徳岡神泉展	92. 6.13～ 7.26
源氏物語絵模本 扇面写経下絵模本 鳳凰堂中堂扉画模本	京都府京都文化博物館	光源氏と平安貴族－栄華の日の虚と実	91.10.10～11.17
山口華楊－樹	名都美術館	山口華楊展	91.10.15～11.17
瀬戸袖筒水指 色絵七宝透文手培 色絵松竹梅文四方皿 桜花文瓢形德利 色絵槍梅文水注 赤絵鳳凰文花器 錆絵雲鶴文急須 染付蝦蟹図茶碗 色絵双龍丸紋花瓶 色絵椿文皿 千鳥蒔絵酒温器 存星人物図小箱 鶴蒔絵螺鈿丸硯箱 梨地絵変わり蒔絵堤重	(助)京都伝統産業会館	伝承の美－京の工芸品展	91. 9.20～ 9.23
小合友之助－雨	京都市美術館	発動する現代の工芸・1945～1970・京都	91.11. 9～12. 8
矢延憲司－Nest(for dictators)	作者本人	ヤノベケンジの奇妙な生活	91. 8.16～ 9. 8

作品名	貸出先	展覧会名	会期
三十二番職人歌合 七十一番職人歌合 東北院歌合 東北院歌合詞書	京都市歴史史料館	動乱の京都－南北朝から室町時代へ	91. 10. 14～11. 28
色絵牡丹文猪口 祥瑞手上絵付六角小皿 呉須赤絵見込向付 古染付大明成化製茶碗 祥瑞染付中皿 古染付高土図角皿 祥瑞手六角小皿 粉彩見込染付向付 外青瓷内色絵算本文向付 古染付桜閣図皿 呉須南京皿鳳凰牡丹文 呉須染付火入	(協)京都伝統産業会館	中国の陶瓷たち	91. 1. 21～ 1. 26
土佐派絵画資料 「平家絵稿本」	斎宮歴史博物館	王朝文化の美－平家物語の世界	92. 1. 14～ 2. 23
安井友幸一家族	作者本人	藤田匠平・安井友幸作品展	91. 10. 22～10. 27
佐藤光華－三五夜中	セゾン美術館	日本の眼と空間Ⅱ－近代の趣味：装飾とエロス	92. 1. 2～ 1. 27
麻田辨自－馬 暈 樹園 鴨群 比叡対水 採蓮図模写 伝仇英－採蓮図	京都市美術館	京都の美術昨日・今日・明日 Ⅷ 麻田辨自の遺作と所蔵品展	92. 1. 28～ 2. 23
福田平八郎－雨後 黄菊	朝日新聞社	生誕100年記念 福田平八郎展	92. 1. 9～ 1. 21
澤田誠一郎－友禅図案 蒔絵図案 原在寛－寝台一式図案 源氏紅葉賀之意書院飾器具之内硯箱置時計図案 漆見本手板	大阪市立博物館	工芸家たちの明治維新	92. 3. 7～ 4. 19
富本憲吉－磁器赤地金銀彩羊歯模様飾壺	奈良県立美術館・読売新聞社・美術館連絡協議会他3者 近代陶芸の巨匠 富本憲吉展		92. 3. 21～10. 7
上村松篁－立葵	朝日新聞	上村松篁・魂の賛歌	92. 3. 18～ 6. 9
ヤノベケンジ－NEST(for dictators)	水戸芸術館	妄想砦のヤノベケンジ	92. 3. 10～ 4. 4
中谷直子－争鳥-ゆりかもめとカラス-	作者本人	なかたになおこ展	92. 3. 31～ 4. 5

B. 収蔵品学内使用状況

本学内に於いて館外使用した収蔵品は下記のとおりである。

総計 5件 6点

資料名		目的	貸出先	使用場所
桓野王図粉本	1枚	模写	日本画研究室	模写室
訶梨帝母像模本	1幅	模写	〃	〃
焰魔天像模本	1幅	模写	〃	〃
木下章模 聖オルソラ物語	2面	展示	図書展示委員会	陳列室
木下章等模 女史箴図巻	1巻	展示	〃	〃

C. 収蔵品補修状況

今年度補修修理を行った収蔵品は下記のとおりである。

総計 17件 216点

名称	点数	類別	補修内容
村田博三 「壁掛図案」	1面	図案卒業作品	扁額装
長谷川雄二 「近代式飾棚図案」	1面	図案卒業作品	扁額装
水上一實 「近代式飾棚図案」	1面	図案卒業作品	扁額装
溝部月香 「観花」	1幅	日本画卒業作品	改装(軸)
岡西湖 「荒涼」	1幅	日本画卒業作品	改装(軸)
大西荘観 「外出前」	1幅	日本画卒業作品	改装(軸)
入江波光 「北野の裏の梅」	1幅	日本画卒業作品	改装(軸)
〃 「虹画稿」	1枚	参考品	改装(扁額)
〃 「北野の裏の梅画稿」	1枚	参考品	改装(扁額)
〃 「春雨画稿」	1枚	参考品	改装(扁額)
村上華岳 「裸婦画稿」	1幅	参考品	改装(扁額)
福田平八郎 「黄菊」	1枚	参考品	改装(扁額)
〃 「桜」	1枚	参考品	改装(扁額)
〃 「すっぽん・リン」等	1枚	参考品	改装(扁額)
〃 「記念帖小下絵」	1枚	参考品	改装(額)
上原卓 「写生一括資料用」	1組	参考品	改装(箱)
土佐派絵画資料	200枚	参考品	裏打

D. 収蔵品撮影掲載状況

本学収蔵品の撮影掲載許可は下記のとおりである。

総計 31件 38点

作品名	掲載者	掲載書紙名	発行日
小野竹喬「南国」	(株)学習研究社	現代の日本画第一巻 「小野竹喬」	1991. 9
今尾景三「暖かな日」	今尾景三	今尾景三作品集	1993. 4
「大文字屋宗閑画像」	(株)河原書店	「茶道雑誌へ」8月号	1991. 8
村上華岳「二月の頃」	(株)新潮社	「芸術新潮」7月号	1991. 7
高木勇「ふるさと」	(株)山河社	「花も嵐も」10月号	1991.10
古清水「色絵七宝透文手焙」	(株)講談社	日本美術全集第18巻	1991.12
古清水「色絵松竹梅文四方皿」 尾形乾山「色絵梅花文茶碗」	(株)同朋舎出版	「器と料理」第2巻	1991.10
佐野猛夫「凍雲」 「黒い潮」	(株)ニューカラー 写真印刷	「佐野猛夫蠟染作品集」	1991.10
「泉州殿像（小西隆佐画像）」	(株)新人物往来社	「豊臣秀吉の生涯」	1991. 8
ニューギニア民俗資料のうち 「仮面」・「楯」	(株)フローラ	「私のナイーブ・アート館」 日本編	1991. 8
古清水「色絵七宝透文手焙」	(株)大日本印刷	(株)ダントー・1992カレンダー	1991.12
福田平八郎「雨後」	大分市美術館	ハイビジョン静止画ソフト	1995. 4
尾形乾山「色絵梅花文茶碗」	(株)講談社	「日本のやきもの」第7巻	1991.11
土佐光吉「さかつくり」	(株)菊正宗酒造	社員教育・通信教育教材	1991. 5
宇田荻邨「野々宮」	社団法人「日展」	「日展史」第21巻	1991. 3
菊地芳文「柳鷺図」	(株)日本アート・ センター	「日本美術院百年史」 第3巻	1991.12
土田麦僊「髪」 小野竹喬「南国」	(株)生活の友社	「美術の窓」10月号	1991.10
「今井宗久画像」	(株)新人物往来社	「写真でみる信長の生涯」	1991.12
鶴沢探鯨「唐人物図」	文化観光局文化財 保護課	「近世の京都画壇」	1992. 3
上村松篁「立葵」	(株)日本経済新聞社	日経ポケット・ギャラリー 「上村松篁」	1991.11

作品名	掲載者	掲載書紙名	発行日
土田麦僊「髪」 岡本神草「口紅」	(株)講談社	日本美術全集第22巻	1991. 12
村上華岳「羆熊」	日本放送協会	日曜美術館「村上華岳」	1991. 11
「今井宗久画像」	(株)風土社	「歴史と文学の回廊」第10巻	1991. 12
岡本神草「口紅」	(株)毎日新聞社	毎日新聞夕刊美術館	1991. 12
板倉星光「はなび線香」	(有)時の美術社	月刊「百日草のはなよめ」	1992. 1
「長谷川藤広像」	(株)講談社	日本美術全集第14巻	1992. 2
近藤悠三「榴染付壺」 河合卯之助「いちはつ赤絵額皿」	(株)マリア書房	「陶芸の遺産」	1992. 4
土佐光則「土佐光吉像」	和泉市久保惣記念美術館	「源氏物語手鑑研究」	1992. 3
村上華岳「二月の頃」 入江波光「北野の裏の梅」	(株)日本アート・ センター	「名画と出会う美術館」 第8巻	1992. 5
入江波光「北野の裏の梅」	(株)京都新聞社	「雪月花の近代」	1992. 5
谷文晁模写「天神縁起絵巻」	岩田由美子	東京国立博物館「MUSEUM」	1992. 7

注：掲載を要しない研究等のための撮影は挙げていない

E. 博物館学実習受入状況

本学博物館学課程の博物館学実習について本施設では下記の実習者を受入れた。

久保 達也	小泉 佳代	重松 康希	西岡 文	勝又 良宏
飯塚 牧子	島原 健次	森 美和子	山下華世子	山中 恵美
加藤 和宏	鈴木 康雄	高井 節子	中尾 紀行	吉田 幸代
北原 美保	澤田亜紀子	竹内 一永	高田 歩美	羽田 登喜
広瀬 智子	西澤 市子	酒井 章憲	吉村 典子	梅村まり子
大隅 聡子	馬場 政則	平木くるみ	和久井くみこ	

以上29名

F. 特別閲覧許可状況

本館収蔵品の特別閲覧状況は下記の通り。

学内関係者	3件
学外特志者	3件
総計	6件